

社会資本総合整備計画 事後評価書

様式 1

1. 整備計画															
計画の名称		快適な住環境と広域交流基盤整備計画													
計画の期間		平成	31	年度	～	令和	5	年度	交付対象	藤枝市					
計画の目標		安全かつ安心で住みやすい広域中核都市づくりを推進するため、生活道路や幹線道路の整備を進め、市民生活の利便性の向上、円滑に移動できる交通体系や広域アクセスの充実を実現する。													
計画の成果目標（定量的指標）		生活道路整備による利便性向上の指標として、焼津森線下中間地区及び志太中央幹線本町地区から新東名藤枝岡部ICへの到達時間を平均10%短縮させる。													
定量的指標の定義及び算定式								定量的指標の現況値及び目標値			備考				
								当初現況値 H31年度	中間目標値 -	最終目標値 R5年度					
①		主要地点から新東名藤枝岡部ICまでの到達時間の実績から短縮率を算出する。 $(1 - \text{藤枝岡部ICへの到達時間 (H35実績)} / \text{藤枝岡部ICへの到達時間 (H30実績)}) \times 100$						0%	-	10%					
②									-						
全体事業費	合計 (A+B+C)	956	百万円	A	956	百万円	B	0	百万円	C	0	百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	0	%
事業種別	主な交付 対象事業	要素となる事業名 (事業箇所)				事業内容 (延長・面積等)				全体事業費 (百万円)	備考				
道路		仮宿下付田高田線				道路新設 L=1.33km				150					
事業数		天王町仮宿線				道路新設 L=0.74km				129					
		焼津森線関連市道				現道拡幅 L=2.10km				513					
		志太中央幹線関連市道				現道拡幅 L=0.10km				12					
5		仮宿下付田高田線ほか				道路新設 L=1.60km				152					
2. 事業の進捗状況 (○：計画期間中に完成 △：計画期間終了後に完成見込 -：その他 (備考欄に具体的に記入 (中止、未実施等)) (計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●：本計画の期間中に完成 ▲：本計画の期間終了後に完成見込)															
計画の移行なし	○	1	△	-	備考				計画の移行あり	●	▲	4			
3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況															
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		生活道路及び幹線道路の整備により移動時間が短縮され、市民生活の利便性向上が図られた。													
II 定量的指標の達成状況		指標①	最終目標値	10	%	目標値と実績値に差が出た要因	到達時間は短縮しているが事業が未完であるため、未供用や狭窄区間が存在し円滑な通行が出来ないことから目標が達成されなかった。しかし、要素事業A01-004に関連した志太中央幹線の一部区間が令和5年3月末に供用したため、本路線利用による藤枝岡部ICまでの所要時間は、供用前の令和4年度に比べ短縮しており道路整備による効果が見られる。								
			最終実績値	3	%										
		指標②	最終目標値			目標値と実績値に差が出た要因									
			最終実績値												
III 定量的指標以外の 交付対象事業の効果の発現状況		生活道路や幹線道路の整備により、歩行者の安全性向上や車両通行空間の改善、更には渋滞緩和による交通の円滑化が図られている。													
4. 今後の方針															
引き続き、生活道路及び幹線道路の整備を推進し、移動時間短縮による円滑な交通移動体系の確立を図っていく。															

【 快適な住環境と広域交流基盤整備計画 】

(1) 事業の目的

安全かつ安心で住みやすい広域中核都市づくりを推進するため、生活道路や幹線道路の整備を進め、市民生活の利便性の向上、円滑に移動できる交通体系や広域アクセスの充実を実現する。

(2) 指標

生活道路整備による利便性向上の指標として、焼津森線下当間地区及び志太中央幹線本町地区から新東名藤枝岡部 I C への到達時間を平均 10% 短縮させる。

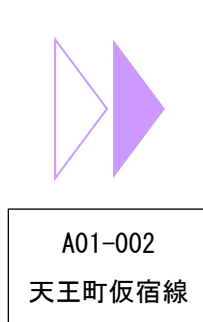
$(1 - \text{藤枝岡部 I C への到達時間 (R05 実績)} / \text{藤枝岡部 I C への到達時間 (H30 実績)}) \times 100$

指標の達成状況

新東名藤枝岡部 I C への到達時間の平均短縮率は 3% であり、目標 (10%) を達成することは出来なかった。主な理由は、主要地方道焼津森線や都市計画道路志太中央幹線の整備が着実に進捗しているが完了していないため、目標の 10% 到達には、もう少し期間を要する。

計画の成果目標	定量的指標			
	当初 (平成 30 年度)	最終目標 (令和 5 年度)	最終実績 (令和 5 年度)	達成率
新東名藤枝岡部 I C への到達時間を平均 10% 短縮させる	0% (11.1 分)	10% (10.0 分)	3% (10.8 分)	27%

(3) 指標に関連する実施事例



(4) 定量的指標以外の効果発現状況

生活道路や幹線道路の整備により、歩行者の安全性向上や車両通行空間の改善、更には渋滞緩和による交通の円滑化が図られている。

(5) 今後の方針と目標達成見込み

引き続き、生活道路及び幹線道路の整備を推進し、移動時間短縮による円滑な交通移動体系の確立を図っていく。

社会資本総合整備計画〔快適な住環境と広域交流基盤整備〕整備箇所図

